

がい よう ばん  
概要版

詳しく知りたい方向けの詳細版しゆじょうばんもあります。

小学校6年 ~ 高校1年<sup>相当</sup>の女の子と  
保護者の方へ大切なお知らせ



あなたと  
関係のあるがんがあります

# ウイルス感染でおこる子宮けいがん

詳細版  
P2~3

「がんってたばこでなるんでしょ？」

「オトナがなるものだから私は関係ない」って思っていないですか？

実はウイルスの感染がきっかけでおこるがんもあります。その1つに子宮けいがんがあります。

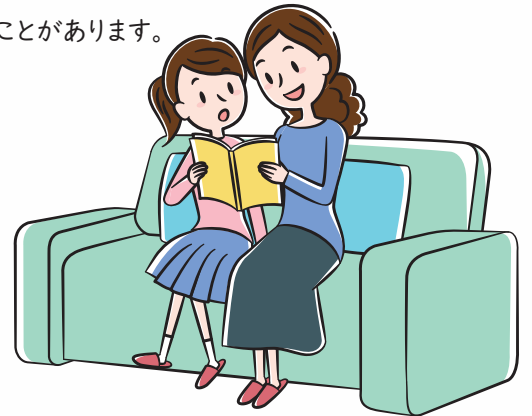
HPV(ヒトパピローマウイルス)の感染が原因と考えられています。

このウイルスは、女性の多くが“一生に一度は感染する”といわれるウイルスです注)。

感染しても、ほとんどの人は自然に消えますが、一部の人でがんになってしまうことがあります。

現在、感染した後にどのような人ががんになるのかわかっていないため、感染を防ぐことががんにならないための手段です。

注) HPVは一度でも性的接触せっしょくの経験があればだれでも感染する可能性があります。



女性の多くがHPV(ヒトパピローマウイルス)に  
“一生に一度は感染する”といわれる

がんになる場合も

感染を防ぐことが  
がんにならないための手段

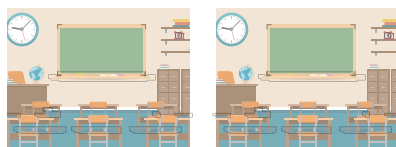
## <何人くらいが子宮けいがんになるの?>

日本では毎年、約1.1万人の女性が子宮けいがんになり、毎年、約2,800人の女性が亡くなっています。患者さんは20歳代から増え始めて、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう(妊娠できなくなってしまう)人も、毎年、約1,200人います。

## <一生のうち子宮けいがんになる人>

1万人あたり132人

2クラスに1人くらい

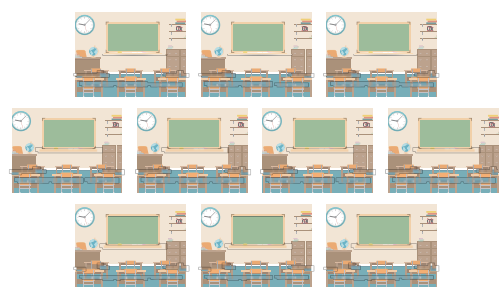


1クラス約35人の女子クラスとして換算かんさん

## <子宮けいがんて亡くなる人>

1万人あたり30人

10クラスに1人くらい



つまりこれってどのくらい?

※国立がん研究センター がん情報サービス 2015年全国推計値に基づく累積罹患リスク、2017年累積死亡リスクより

## 子宮けいがん<sup>1</sup>で苦しまないために、できることが2つあります

詳細版  
P4

### ① 今からできること

日本では、小学校6年～高校1年相当の女の子を対象に、子宮けいがんの原因となるHPVの感染を防ぐ

ワクチンの接種を提供しています。

HPVの感染を防ぐことで、将来の子宮けいがんを予防できると期待されています。

イギリス、オーストラリアなどでは女の子の約8割がワクチンを受けています。



### ② 20歳<sup>さい</sup>になったらできること

HPVワクチンを受けていても、子宮けいがん<sup>けいしん</sup>検診は必要です。

2年に1度 検診を受けることが大切です。



## HPVワクチンの効果

詳細版  
P5

HPVワクチンは、子宮けいがんの原因となる様々なHPVのうち、子宮けいがんをおこしやすい2種類のウイルスの感染を防ぐことができます。

そのことにより、子宮けいがんの原因の約50～70%を防ぎます。



## HPVワクチンのリスク

詳細版  
P6

多くの方に、接種した部分の痛みや腫れ、赤みなどの症状<sup>しょうじょう</sup>が起こることがあります。

筋肉注射という方法の注射で、インフルエンザの予防接種等と比べて、痛みが強いと感じる方もいます。

ワクチンを接種した後に、まれですが、重い症状<sup>じゅうじょう</sup>注1)が起こることがあります。

また、広い範囲<sup>はんい</sup>の痛み、手足の動かしにくさ、不随意運動<sup>ふずい うんどう</sup>注2)といった多様な症状が報告されています。

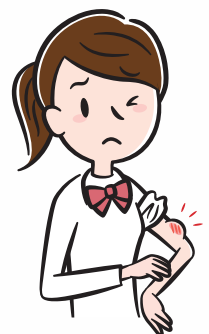
ワクチンが原因となったものかどうか分からないものをふくめて、接種後に重篤<sup>じゅうとく</sup>な症状<sup>しょうじょう</sup>注3)として報告があったのは、ワクチンを受けた1万人あたり約5人です。

ワクチンを合計3回接種しますが、1回目、2回目に気になる症状が現れたら、それ以降の接種をやめることができます。

注1) 重いアレルギーや神経の病気

注2) 動かそうと思っていないのに体の一部が動いてしまう

注3) 重篤な症状には、入院相当以上の症状などがふくまれています。報告した医師や企業の判断によるため、必ずしも重篤でないものも重篤として報告されることもあります。



## まずは、知ってください

すべてのワクチンの接種には、効果とリスクとがあります。

まずは、子宮けいがんとHPVワクチン、子宮けいがん検診について知ってください。  
周りの人とお話ししてみたり、かかりつけ医にご相談いただくこともできます。



## ワクチンを受けることを希望する場合は

詳細版  
P5,8

小学校6年～高校1年相当の女の子は、ワクチン接種が公費で受けられます<sup>注)</sup>。

今、日本で使われているワクチンは2種類あり、

病院や診療所で相談し、どちらか一方を接種します。

ワクチンの種類によって接種の間隔が少し異なりますが、

どちらも半年～1年の間に3回接種を受けます。接種には、保護者の方の同意が必要です。

注) 公費の補助がない場合の接種費用は3回接種で約4～5万円です。

1回目、2回目に気になる症状が現れたら、それ以降の接種をやめることができます。

対象年齢の  
女の子は公費

半年～1年の間に  
3回接種

### 市町村からのご案内 <例>

#### ① 接種場所

市内の契約医療機関 (〇〇市ホームページ <http://www.xxxxxxxxx.lg.jp>)

#### ② 接種費用

〇〇円

#### ③ 接種に必要なもの

- ① 市民であることを確認できるもの (健康保険証など)
- ② 予診票 (契約医療機関又は市町村に備え付けています)  
※保護者の署名が必要です

#### ④ お問い合わせ先

〇〇市保健福祉部保健予防課 電話 〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇 (午前〇時～〇時)

## もっと詳しく知りたい方は

このご案内の内容をもっと詳しく説明している「あなたと関係のあるがんがあります<詳細版>」や、  
その他のご案内をご覧ください。

厚生労働省 子宮けいがん



このご案内は、小学校6年～高校1年相当の女の子やその保護者の方に、  
子宮けいがんやHPVワクチンについてよく知っていただいた上で、希望される方に接種していただけるよう、  
おすすめするお知らせをお送りするのではなく、みなさまに情報をお届けするものです。